翼

―つばさ―

映画「アンダンテ～稲の旋律～」がついに完成

町長　佐藤　晴彦

町民会館において全国に先駆けて試写会

映画「アンダンテ～稲の旋律～」がついに完成し、昨年12月6日町民会館において全国上映に先駆けての試写会が行われました。

この映画は、横芝光町を舞台に現代社会が抱える「引きこもり問題」や「食の安全・安心や食料自給率などの農業問題」などをテーマとして、心の病に悩む若い女性と農業の現実に立ち向かう青年の心温まる交流を描いた感動作品です。

そして、スクリーンには横芝光町の「豊かな自然・農業・生活を営む人々」がしっかりと映し出され、とても素晴らしい映像となっており、この感動を全国に発信したいと思っております。

▲多くの方々のご協力により映画が完成

12月6日の町内試写会は別の公務のため観ることが出来ませんでしたが、9日の千葉市文化ホールでの上映会で初めて観ることが出来ました。この映画の原作となった小説「稲の旋律」の作者旭爪あかねさんから「自分の小説が実際に映画になっただけで大きな感動を覚え、1時間48分の間終始ハンカチを目元から離すことが出来ませんでした。」と伺い、その思いや映画制作を支援する町民の会の会長として制作にかかわった約1年間を自分なりに振り返ると、熱いものが何度もこみ上げてきました。

▲町内試写会

有楽町マリオンでの全国試写会

その後の有楽町マリオンで全国試写会がおこなわれ、千葉での試写会を含めると3回観ることができましたが、率直に何度観てもとても感動しました。何に感動したかは、はっきりとは判りませんでしたが、横芝光の自然がとても印象的で、鑑賞する度に新たな発見があり、この映画の奥の深さを感じ取る事も出来ました。

また、この試写会では、出演者の新妻聖子さん、筧利夫さん、松方弘樹さんや金田監督などによる舞台挨拶も行われましたが、大勢のマスコミ関係者が取材するなど、この映画に対する関心の高さを伺い知ることができました。

▲篠本地区での田園を背景に

この映画の客観的な講評は決して出来るものではありませんが、周りで一緒に観ていた数人の知人に感想を尋ねてみると、「とてもいい映画だ、感動した。」と言っていただけました。

町の更なる活性化に繋げたい

撮影中、映画制作を支援する町民の会の皆さんをはじめ、多くの町民の方々のご理解とご協力のもと、素晴らしい感動作品が完成したところですので、是非ともこの映画を全国に広げながら、この映画を通じて更なる町の活性化に繋げたいと考えております。

町内での一般上映は1月15日を皮切りに、町民会館と文化会館において30回を予定していますので、町民の皆様のみならず町外の皆様にもぜひご覧頂きたいと思います。